

特集

# この本と私



## 「人生論・愛について」

武者小路実篤 著

文豪が書く「愛」とはどんなものなんだろう。この本は、約2ヶ月前、人を愛するということに悩んでいた時期に購入し、夢破れ、読まずに放置していたものでした。そして、今回「愛よりも「人生論」の方に惹かれ、読み始めたのです。驚きました。今の私の心の内を見透かされたような文章が延々……。読み進めるのが辛く、途中で何度も中断した程です。

【分かったふりをする、本当のことが分からなくなり、何事もごまかさなければならなくなる。しかし、本当だ、本当だと、つい嬉しくなり、夢中になり、霊と霊とが触れ合うように、はつきり分かったとき、本当に分かったのだ】常日頃言われていたこと。分かっていない、そんな顔をしている、と言われ、何で？分かつているのに、と思ったことも多々。でも、心は晴れない。自分の気持ちに蓋をして、ただ、分かったフリ。その場を通り過ぎるためだけに……。

さらに、【人間以外の動植物は、何の為に生まれたのか、などとは考えない。ただ生くべきして生き、死ぬべくして死ぬ。だから美しい】と、書かれている。生きていることが尊いということ、実感として、まだハッキリ分かった訳ではないけれど、内からのメッセージをキャッチし、有りの儘、自然に生きて行ける人間に少しでも近づきたいと思っています。

智保



新潮文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞